

Low-High-Doで トータルスマービングを目指す

安達 均

元 業務用冷凍・空調システム販売会社



約1万年前の先祖（600代程前）が植物を栽培し動物を家畜化する農耕革命を起こし、人間らしい生活（衣食住）が出来るようになった。250年前にイギリスで起った産業革命を契機として大量生産、大量流通、大量消費の国際的大競争時代へとつながった。その後の爆発的な人口増加と膨大な資源消費により地球的規模の諸課題に直面している。我が国では食料とエネルギーの自給率が過去最低のレベルで推移しており安全保障上からも早期改善が急務となっている。1960年80%であった食料自給率が40%を切る水準で先進諸国の中でも最悪の状況である。一方では国内食料生産量の約3倍の2,800万トンが輸入され、同時に食品廃棄物が2,000万トン程発生している現実を直視し、大局的なバックボーンとしてこれまでの経歴を生かせる下記の課題に取り組みたい。

具体的には①食品廃棄物を再活用した寒冷地向け高効率複合式ローコスト年間営農空調システムの開発・普及活動に関わってきた。積雪寒冷な冬期間を営農持続するには施設の加温を限りなくローコストで実行できるかが最大のポイントである。既に連携活動で食廃油の直焚き小型ボイラーが実用化され普及・拡大を目指している。そこで、化石燃料の高騰で年間営農を断念している農業者を支援し競争力のある自給率向上に貢献したいと願っている。②食品廃棄の原因となっている鮮度低下による品質劣化を喰い止める各種鮮度保持システムを再生エネルギーを活用して開発・普及させる研究に関わってきた。高度に追究する事によるブランド化により付加価値の拡大を目指し関連事業者の更なる意欲高揚に直結させていきたい。③身近な食品廃棄物（加工残渣を含む）からの有用物質の抽出や他物質との融合による新機能製品等の開発を推進したい。高額な外貨を払って輸入し、焼却処理している現代の歪みを解消したい。④先人が汗を流して開墾した貴重な田畑が雑草が繁茂する荒地になっている。何とももったいなく国家の損失そのものの姿であり今こそ負の財産を解消させ、新規事業の導入を図り生産活動を再開

すべきである。特に都市部に近い地域で前述の食品廃棄物を生飼料として活用できる養鶏・養豚、淡水魚介類の養殖事業を起業させ、マーケットドライブ型の地産地消モデルケースとしたい。⑤食料自給率を高める手法の一つは消費者自ら食料の幾つかを自家栽培する事であり、その仕組みを作りたい。退職後の人生（20年程度）を生き甲斐・遣り甲斐を持って生産活動を担って頂く事が元気な高齢者づくりに役立つ寒冷地向け省エネ式自家用栽培装置を開発したい。生産者の立場を経験すると、食品を大切にする意識が高まり、食品の廃棄量が減少するなど大きな波及効果が期待できる。

実用化研究・開発に当っては「Low-High-Do」を念頭に推進したい。「Low」とは、リスク、コスト、環境負荷、エネルギー負荷、省力などを極力低減する事。「High」とは、安全・安心、センス、スキル、スピード、プロフィットなどを可能な限り高める事。「Do」とは、産学官（農商工）連携による研究・実用化資金の導入、各種関連技術の融合促進、パートナー事業者が抱えている各種ハードル解消に向けた指導・支援など果敢に実行する事。である。

関連機関との忌憚のない連携で総力（戦力）を結集させたい。これから避けて通れないジャパンシンドロームを克服するうえで「スマートセービング⇒スマービング（賢い節約）」が重要なテーマとなる。現場最重視で先入観に捉われない切り口をモットーにあるべき姿を追及し、縮小社会に向けコーディネーター活動で地域社会に微力を尽くしたいと願っている。

氏 名：安達 均（あだち ひとし）

専門分野：ものづくり技術、市場分析・戦略

所属・役職：元 業務用冷凍・空調システム販売会社

略 歴：産学官ものづくり研究支援アドバイザーとして、①鮮度管理システム、廃油・廃熱活用システムの実用化研究、②自然エネルギーの有効活用と省エネタイプ業務用冷凍・空調システムの実用化促進。

メッセージ：

農水産物の付加価値向上には、現場最重視の農商工をはじめとする総合的な連携と融合が一層重要になります。

課題解決に向けた効率的なニーズとシーズのマッチングを進めてまいります。